

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2013.2.15 No. 157 連絡先 FAX 042-555-1911



なぜ米軍機は、横田基地周辺の住宅地上空を気ままに飛行するのか

横田基地周辺に暮らしているといつのまにか、上空を飛行する C-130 輸送機を見ても慣れっこになってしまいます。これまでの飛行コースは、瑞穂町、羽村市、福生市、昭島市でした。しかし、最近は様子が違います。あきる野市、青梅市、武蔵村山市からも飛行の情報が寄せられ、見慣れないコースを急旋回して飛行することもたびたびあり、ドキッとします。

アメリカでは、基地そのものが大きいので飛行訓練は、基地の上空内で収まっています。

横田基地周辺は住宅密集地であるにもかかわらず、米軍は基地内のつもりなのでしょう。



横田基地の C-130 輸送機は。関東平野でも有視界飛行訓練を行っています。沖縄も日本本土も米軍にとっては全部基地並なのかも。

米軍の基地特権を認めた安保条約を、改めて学ぶ必要がありそうです。

横田基地のC-130 コープノース・グアムでアンダーセン空軍基地に

2月4日から15日までグアム・アンダーセン空軍基地やテニアン等で、日米豪共同訓練コープノース 2013 が行われています。航空自衛隊から430人、米空軍から約1700人の参加だそうです。

上の写真は、現地での米軍横田基地の C-130H 輸送機です（米空軍 HP より）。地震など被災国からの要請を想定した物資輸送や空中投下などの人道支援・災害救援訓練となっていますが…。

米軍は海外での共同訓練（あるいは戦闘訓練）のために、横田基地で訓練が行われています。



このところ出入りが多い大型空中給油機

横田基地への飛来回数が多いのは C-5 と C-17 の大型輸送機ですが、次に多いのは KC-135 と KC-10 の大型空中給油機です。左の写真は 2月2日に撮影されたもので、上が KC-135、下が KC-10 です。

2月3日も KC-135 が3機と KC-10 が2機が、2月11日も KC-135 が3機と KC-10 が2機が、目撃されています。このように KC-135 や KC-10 の出入りが多いのは、コープノース 2013 の関係でしょうか。これまでも海外での演習時には、空中給油機の飛来が多くなります。



横田のUH-1Nヘリが 緊急時対応で 新東名高速遠州森町パーキングに



2月5日、米軍横田基地の UH-1N ヘリコプターが、静岡県の新東名高速道路の遠州森町パーキングエリアに出かけました。潜在的な地震に備える救助訓練ですが、在日米軍が訓練に参加したのは初めて。「このような演習が日本国民との関係を強化する」、米軍横田は「すでに次の訓練に参加することを計画している」と述べています。（写真：米軍横田基地 HP）

オスプレイ 民間地に水筒を落下！ 安全を保障すべき

(No.157の裏面)

米軍普天間飛行場から離陸したオスプレイが5日午後、滑走路南西側の基地外の宜野湾市の民間地に、個人用水入りボトルを落下させていたことが、6日明らかになりました。この事故について米側は当初、機種を明らかにしませんでした。沖縄でオスプレイからの落下事故は初めてです。

オスプレイからの落下物事故は、1月にも米カリフォルニア州サンディエゴで洗浄液が入った容器を落下させ、自動車整備工場の屋根を突き破り、あわや大惨事となる事故がありました。

2011年7月にはアフガニスタンで乗員1人がオスプレイから転落し、死亡しています。

オスプレイは飛行中、荷物搭載口を開放することが大半で、積載物がこうも簡単に落下するのは、機体や飛行形態に構造的な欠陥があるのでしょうか。オスプレイの飛行は本当に危険です

「水筒の落下が明らかになった翌日には、重低音を響かせ、機体を傾けながら住宅地上空を次々に飛ぶオスプレイに、宜野湾市民は墜落の恐怖を口にし、『無神経だ』『市民をばかにしている』と憤った。」と沖縄の地元紙は報じています。オスプレイの配備は撤回し、安全を保障すべきです。

沖縄県浦添市 三つどもえの市長選：軍港ノーの市長が当選

市議選：基地ノー、くらし守る共産党がトップと2位で当選

2月10日投開票で、沖縄県内第4の都市・浦添市の市長選挙と市議会議員選挙が行われました。

市長選挙は、新人で元NPO法人代表の松本哲治氏(45)＝無所属＝が初当選をはたしました。

松本氏は既成政党の支持を得ず、「市民が主役の民主主義」の実現などを訴え、選挙の大きな争点となった那覇軍港移設問題では告示直前に「受け入れ反対、移設なき返還を求める」の立場を前面に打ち出しました。市長選挙は、軍港問題で日米合意受け入れの現職市長や、自民・民主など各党が相乗りで推した有力新人と、松本氏の三つ巴の選挙でした。

市議会議員選挙は、定数27に35人が立候補の多数激戦。自民党と民主党が公認候補を立てられず、社民党は議席を失い、公明党、社大党も得票を減らすなか、日本共産党は伊礼悠記さん(30)＝新＝が3124票でトップ、西銘健さん(31)＝現＝が3088票を得票して2位当選しました。

市議選では、オスプレイ配備撤回とともに那覇軍港返還の見返りとしての浦添新軍港が争点となり、唯一反対の論陣を張った共産党への信頼が広がりました。また不況のなか、国保料や水道料値上げ反対、学校給食無料化や保育所増設の子育て支援策も支持されました。浦添市は、平均年齢38歳という若い市で、青年候補の訴えも共感を呼んだそうです。

浦添市は那覇市の北隣です。浦添市にある米海兵隊キャンプ・キンザーは浦添市西部から浦添市北部にかけて長さ約3km、国道58号から西海岸にかけて幅約1km、市面積の約14%を占めています。(写真：基地の兵士寮 米軍HP)



総理直訴 NO OSPREY 東京集会後のパレードや写真展のことなど

1月27日、NO OSPREY 東京集会後のパレードに、沿道にズラリと並んだ右翼などが悪罵を投げつけました。また、米軍機墜落や部品落下など戦後の沖縄で起きた事件・事故の写真等を集めた「刺さった記憶」展が開かれたビルの前でも右翼の街宣車がつぎつぎとがなり立てました。全く恥ずかしいことです。私たちは、総理直訴東京集会をしっかり受け止めていきましょう。

